

難民を助ける会設立趣意書

1975年インドシナ3国では永い間続いた戦争が終結し、爾来、150万を超える人々が住み慣れた故国を捨て世界に離散した。わが国にも7,000人を超える難民が救いを求めて来航し、官民相携えての援助を得て3,000名に近い人々が定住しつつある。しかしながら、タイ国内、タイ/カンボジア国境地帯をはじめ東南アジア諸国にはまだ数十万のインドシナ難民が安住の地を求めて苦難の日々を送っている状況が続いている。

翻って世界に目を転ずれば、アフガニスタン、パレスチナ、東アフリカなどから隣国に逃れて幸せを求めようとする人々が数多く存在している。

1979年、カンボジアから新たに大量の難民がタイに逃れて来たとき、遺憾ながら、われわれは「日本人は冷たい」との批判を受けたが、その後、わが国では青少年、婦人、労働者、教育、宗教関係者らをはじめ多数の人々が立ち上がって、稀に見る海外救援活動の盛り上がりを見せ、今日に至っている。

われわれは1979年11月24日、逸早く難民救援のための市民団体「インドシナ難民を助ける会」を組織し、満5周年を迎えるにあたり、難民問題の世界的規模への拡大と支援する国民各位の期待に応え、同会を発展的に解消し、救いを求め援助を必要とするすべての難民に対して、古来、日本人の心に流れる善意を基調とし、愛の手を差し伸べようとして「難民を助ける会」を設立する。

「難民を助ける会」は、政治や宗教や地域の如何を問わず、日本人の持つ善意と人的、技術的、資金的な力を広く結集し、世界が期待している日本人としての役割を担っていきたいと考える。

それが、人類の共存・共栄という理想の実現に寄与することであり、ひいては、日本人一人ひとりに求められている「心の開国」につながるものだからに他ならない。

1984年11月24日